

雑品倉庫

第71号



ここにも亦、平和と敬虔と
休みなき精進とがありはしないか

社会福祉法人唐池学園協力会 令和4年7月発行

表紙を飾る絵は、唐池学園と繋がり深い土田邦彦さんが描かれたものです。

学園のイメージに合っていると職員みんなが一目見て気に入り、ドルカスベビーホームの吹き抜けに飾られ、職員と子どもたちを見守ってくれています。

社会福祉法人唐池学園の各施設の所在地等



法人本部・児童養護施設 唐池学園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2377-口

電話：0467-78-0012/0467-78-0514、FAX：0467-76-3006

施設認可年月日：昭和24年4月1日、定員：40名

グループホーム「ななの家」・「よんの家」定員：各6名



児童養護施設 強羅暁の星園

所在地：〒250-0408 足柄下郡箱根町強羅 1320-203

電話：0460-82-2853、FAX：0460-87-7275

施設認可年月日：昭和22年6月19日、定員：50名



乳児院 ドルカスベビーホーム

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2380-2

電話：0467-78-1054、FAX：0467-70-3827

施設認可年月日：昭和44年4月1日、定員：25名



保育所 つぼみ保育園

所在地：〒252-1107 綾瀬市深谷中 5-20-48

電話：0467-78-0641、FAX：0467-79-2908

施設認可年月日：昭和42年5月1日、定員：110名



保育所 吉岡保育園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 1980

電話：0467-78-4324、FAX：0467-78-4365

施設認可年月日：昭和50年4月1日、定員：60名



障害者支援施設 貴志園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2381-1

電話：0467-78-4178、FAX：0467-79-5119

施設認可年月日：昭和49年9月1日

定員：入所30名 通所40名、グループホーム設置

総合支援法による、共同生活援助（グループホーム）、生活介護事業、就労継続B型事業、就労移行・定着支援事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業、自立生活援助事業を行っています。

また、綾瀬市から、基幹相談支援センター、委託相談支援の委託を受けています。

目次

- 役員寄稿「吉岡保育園今昔ばなし」 P 1
- シリーズ連載「千鳥足の価値観」 P 2
- シリーズ連載「野の花のこと」 P 3
- 施設の紹介
 - （ 児童養護施設 唐池学園（P4）、児童養護施設 強羅暁の星園（P5）
 - 乳児院 ドルカスベビーホーム（P6-7）、つぼみ保育園（P8）、
 - 吉岡保育園（P9）、障害者支援施設 貴志園（P10-12）
- 職員寄稿「成長を感じて」 P 13
- バックナンバー紹介 -創作-「新しき酒は新しき皮袋に」 P 14
- 法人「かわら版」～令和3年度のトピックス～ P 16
- 令和4年度イベントのお知らせ P 17
- 令和4年度新任職員紹介 P 18
- 協会の会費・寄附金をくださった方々の紹介 P 19
- 令和3年度決算報告(法人単位貸借対照表) P 20
- 役員等名簿・編集後記・読者プレゼントのお知らせ P 21
- 裏表紙「各施設の所在地等」



第71号刊行に寄せて

唐池学園協会 会長 高松 邦夫

With コロナの時代となり世の中は閉塞感に苛まれています。皆さまはいかがお過ごしですか？

そのような中でも、少し心が前向きになれる一節を昨年の施設紹介（唐池学園）の中から見つけたので、紹介させていただきます（全文は第70号のP6をご覧ください）。

『私たち大人は、今の生活に窮屈を感じ、やりたいことができないと嘆くことが多い。しかし、子ども達はその時々で楽しいことを見つけ、全力で楽しんでいる姿が印象的だ。子どもの頃は持っていたはずなのに大人になると忘れてしまうこの感覚は、今の毎日を楽しむために必要なものだと感じた。』

この文章から、今も昔も変わらず、仕事をするだけでなく生きていくうえで大切なものは何か、に気づかせてくれたと感じました。生きていけば誰しも、少なからず上手いかないことはあるでしょう。ただそれを失敗と思ふさぎ込むか、次に上手くできるための布石と捉えるかで、心の持ちようが大分変わってくると思います。また、大変な仕事などの中にも新しい発見や楽しめる何かが見つかるかもしれません。要はそれに気づけるかが大切なのだと思います。

この雑品倉庫も平成30年の復刊から5冊目、職員諸氏の協力により毎年色々なことに気づかせてくれる良い会報に仕上がっていると自負しております。是非ご覧いただき、巻末の読者プレゼントの応募の際に、皆さまからのご感想やご意見などをお寄せいただくと幸いです。

役員寄稿

吉岡保育園今昔ばなし

理事（吉岡保育園園長） 笹野 つる子

今から48年ほど前、ここ吉岡地区においても急激な都市化をきたし、保育児童の急増による地域の要望に応えるため、保育所が設置されることとなったようです。

1974年6月に認可申請し、1975年4月に開園となりました。当時の残された資料を見てみると初代園長の中村先生が、資金繰りや手続きに奔走する様子が鮮明に残されていました。不足する資金を何とか工面するために自らの資金を寄付金として補填され、ご苦労がうかがえますと共に、開園への「意気込み」や「希望」や「保育への思い」があふれています。

吉岡保育園の周りは創立のころの自然豊かなままですが、ご近所の志澤さんは、以前、子豚の養豚をされていました。すぐお隣でしたので、散歩に出かけると、生まれて間もない子豚を抱かせていただいたりもしました。衛生管理上ご無理していただいたのだろうと今思うと、優しい思いやりに感謝です。目久尻川近くには、かつて牛舎もあり、沢山の牛が飼育されており、牛の乳を搾る様子なども見せていただきました。鴨や鯉が泳ぐ様子や田園風景は今も昔も変わらぬのどかな散歩コースです。



昭和51年3月 第1回卒園記念（中央が中村先生）



保育園園舎は、増築後、8年ほど前の防音工事できれいになりましたが、外観は当時のままを残しています。

近年、園庭が広くなり「どんぐりの丘」と命名した築山は、子どもたちが日々自然に触れることのできる園庭となりました。毎号の「野の花のこと」の投稿でおなじみの前園長の大塚先生は、雑草や昆虫などの自然をこよなく愛し、大切にされていました。職員が草むしりや落ち葉の掃除をすると叱られました。雑草や落ち葉には子どもたちが夢中に遊ぶ最良の教育であり宝の山なのです。ですから、花屋の店先で売られているきれいな花にはさほどの興味はなく、ヘクソカズラやセンダン草等見つけると目を輝かせて子どもとの遊びが始まるのです。ムカデなどが出没しますが、「どれどれ」と虫網に入れ遠くまで逃がしに行きます。生き物の命や自然を大切にすることへの生きた教育です。

保護者の活動の一つとして、新聞の発行があります。「でこぼこ道」というその内容は、子どもたちへの温かい思いが込められた新聞です。保育園脇の登り坂は、今では整備されてきれいになりましたが、数年前までは雨が降る度にぬかるんで雨水で削られたでこぼこ道に悩まされていました。仕事や育児、家事に追われ苦労が多いながらも、子どもたちの育ちの喜びに一喜一憂する日々になぞらえて名づけられたのかなと思います。

今、築山は夏草が生い茂り始めました。つつい、むしりたくなる思いですが、けっして不精しているわけではありません。子どもにとっては最高の遊び道具とご理解ください。

「すべては理をもって論ずるべきではない。」

この言葉は自分の生き方の人生訓にしている。というのは、このような生き方が基本にあると己の視野が狭くなり、弊害さえ生むのではないかと感じるからである。

そして行き着くところは殺伐とした人間関係に陥るのではないだろうか。むしろ現実には理屈より感情で動いている。

これを顕著に表したのが、この2年半にわたるコロナ感染ではないだろうか。この影響で、人間関係つまりコミュニケーション力を希薄なものにしてしまったのではなかろうか。

これは単に個人と個人との関係だけでなく、組織とか地域とかを巻き込んだ形で弊害を及ぼしたのではなかろうか。

この課題を解決するには理屈で解決できるとは到底思えず、むしろ本質的なことは「各々が人と人との広い心を持った絆を築いていく」。

『掌中の珠』という言葉があるが、この珠は「絆」に置き換えたい。

すべてはここからの再出発ではなかろうか。



偏差値と知識が主流の現代社会に「心」と「魂」の形而上的な精神論が今必要なのではなかろうか。

心が伴わないものに知識や技術は要らない。

今、みんなして心を磨く時ではなかろうか



【お礼】

昨年唐池学園創設当初の写真を表紙にした雑品倉庫（第70号）を見たある方から、

「唐池には創立の精神が宿っている。私はそう感じました。」

と嬉しい言葉をいただきました。

その精神や魂は唐池学園の特徴でもあり、何よりも大事にしているものです。

皆さまからの心温まる励ましを糧に、これからも雑品倉庫を発行し続けたいと思います。

誠にありがとうございました。

前号最後に触れた素敵な名前を持つ草木の中からいくつか紹介しましょう。まず身近なものからハハコグサ（右の写真）、母子草と書きます。

どこが母子？ と聞きたくなりますがそれもそのはず、もとはといえばこの綿毛がほおけだつことからハウコグサと呼ばれ、それがなまって聞こえのいいハハコグサとなったというわけです。又皆さんご存じの春の七草の一つでもあります。「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、



スズナ、スズシロこれぞ七草」といわれている中のゴギョウがこのハハコグサのことです。産毛におおわれたうす緑の葉は白っぽく見え、昔は草もちの中に入れ親しんできたようです。（今ではヨモギにとってかわられていますが）ところで母子草と張り合ったわけでもありませんが、チチコグサ（左の写真）という草もあります。

これがまた情けない位貧弱な花で（若い時期はそれなりに生き生きとした感じはありますが）父親の一人としては少々つらいところではあります。

次にコバンソウ（右の写真）、初めて見た時の印象は強烈でした。これほど色、姿、形が名前とぴったり一致する草はありません。似たような草ばかりのイネ科の中であって、ひときわ存在感があり、さらさらと風にそよぐ風情は何ともいえません。土手の道の散歩コースやちょっとした空き



地のフェンス沿いに群生するほど普通な草ですのでまだ見たことがない方はぜひ見つけてみてください。かさかさして小さな小判をぶらさげた雰囲気はドライフラワーにも最適です。（同じ仲間でヒメコバンソウというさらに小さい三角形をしたものもあり結構見つかります。）



又別名をタワラムギとも言いますが今ひとつ面白くありませんよ。

次はムラサキシキブ（左の写真）、何と素敵な名前を付けてもらったことでしょう。集まって咲くピンクの花も良いのですが何といてもこの木の実の艶やかで、濃い紫色は決して名前負けしていません。英語ではジャパニーズビューティーベリーといわれるのも納得できます。いかがですか？ 秋の雑木林に入ると紫色は目立ちますので見つかるかも……。今庭先等で見かけるのは実の付きがいいコムラサキという種類のようなのです。

次は珍しい木を紹介しましょう。それはハンカチノキ（右の写真）といいます、初めて聞く名前ではありませんか？元々中国が原産地、日本へは苗木として持ち込まれ、各地に広がったようです。丸く集まった花を包むように大きな総苞片が2枚ぶら下がっています。これが白いハンカチのようだということからハンカチノキと呼ばれるようになりました。新緑の大きな葉の中



にあって純白のハンカチが風にひらひらと揺れる風情は何ともいえません。幸いにも大船植物園で見ることができます。時期は4月から6月です。花が終わると秋に丸い実の集まりがぶら下がっていることでしょう。

心のこもった食べ物の力

栄養士 田村 舞奈

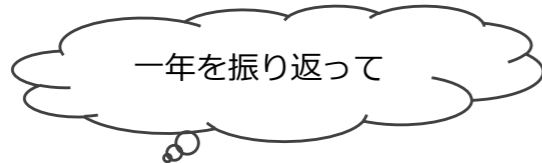
食べ物は栄養を摂ることだけではなく、感動や安心感を与えることができます。私は、美味しいだけでは表せない食べものに出会ったときや想像もしたことなかった食材や食べ物の組み合わせを見て味わうことに感動します。母の生姜がたくさん入っている豚汁や祖母の優



しい味の煮菜やあんぼを食べるとほっこり心が休まります。この食べものは不味いわけではないですが、「とってもおいしい！」と言えるものではないと思います。実家で生活している時は「また出てきた」と、思うこともありましたが、今は一人暮らしをして「食べたいな」と思

って作ってみても、材料や調味料が同じものでもなぜか同じ味を作ることができません。ちょっとした癖や気持ちがかもっているから違う味になるのかもしれない。

現在栄養士として、献立を考えたり調理に従事しています。子どもたちがいつか「唐池のご飯美味しかったな、久しぶりに食べたいな」と少しでも思ってくれたら嬉しいです。そのためにお腹を満たすだけの食事を作るのではなく、心も満たすことができる食事作りを続けたいと思っています。



本当にあっという間の1年で日々ベテランの職員の方々についていくのに必死でした。そんな怒涛な1年ではありましたが子どもたちとの関係も深まり、一緒に過ごす日々はとても楽しかったです。(石合萌悠)

コロナ禍をいう状況の中、制限はありつつも、多くの事を学んだ1年だったように感じます。これからも学園での時間を楽しく過ごしていきたいと思っています。(亀田将基)

私は一年目を終えて多くの事を学び吸収出来ました。二年目では学んだことを活かして、時には立ち止まり自分を見つめ直しながら少しずつ成長していきたいと思っています。(森田優梨)

～コロナ禍 あそび革命～

家庭支援専門相談員 名川 壮平

コロナ終息はまだまだ先となりそうですが今後も児童・職員感染者「0」の継続を目指して参ります。長引くコロナ禍に痺れを切らした「あそび革命家・田中真菜美」が、「自粛ばかりで窮屈を強いられる日々に潤いを」と大型スクリーン付カラオケ & NintendoのSwitch(スイッチ)でeスポーツを毎週土日に開催。大盛り上がりで満喫しています。コロナに負けず強羅の革命は続きます！！



○令和3年度 採用職員のコメント

～振り返って…1年目に掴んだもの～ 椎野由香莉

暁の星の一員となり早一年。実りの多い1年でありながらも、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じます。分からない事や困った事があると、先輩職員が手を差し伸べてくれ、子ども達と共に自分自身も成長する事が出来ました。この仕事を通して、子ども達に何かを教えたり伝えたりする事の難しさを知りました。

自分自身の思っている事が子どもに上手く伝わらず、



令和3年度法人辞令交付式 出発

何度も衝突する事もありました。子どもの数ほど「伝え方」も違って来る為、「どう伝えたらいいのか」「この伝え方で良かったのか」と自問自答しながら過ごしました。そして、伝わった後は子ども達との距離が縮まり少しずつ関係が築けるようになりました。難しさもありますが、伝わった時の瞬間は私自身とてもやりがいを感じています。この1年で学んだ事や経験した事を活かし、これからも日々精進していきたいと思っています。また、2年目も初心を忘れず、子ども達と共に成長していきたいと思っています。



令和3年度法人宿泊研修 箱根湯本にて

「ドルカスでの10年と、これから。」

児童指導員 山口 真平

私は、ドルカスベビーホームに勤めて約10年になります。ありきたりな言い方にはなりませんが、思い返すと本当に長いようであつという間だったな、と思います。私が1年目に担当させてもらった子はもう中学生になり、ここ何年かはコロナウイルス感染症の影響もあり会うことはできていませんが、大きくなった姿を想像するだけで何だか嬉しい気持ちになります。以前、担当していた子を思い返すと、「あの子は元気かな?」「あの子はどうしているかな?」と、一人また一人と続けて思い返すことが多いです。それは担当していた子だけではなく、同じ時期にドルカスで過ごしていた子達も一緒に、「あの子が走り回って遊んでいた頃は、あの子はまだ赤ちゃんだったな。」などと、子ども達との思い出が繋がっていくようです。今は、また以前の様に皆に会えることを願いつつ、皆がコロナにも負けず、元気に過ごしてくれていることを願うばかりです。

子ども達がドルカスで過ごすのは長くても2、3年ほど。小さい頃のことなので覚えていない子もいると思います。けれど、子どもや親御さんにとっては大切な時間です。ましてや、その子の人生が始まってすぐのとても大切な時間です。そんな大切な時間をお預かりするのがドルカスベビーホームなんだと、今回改めて感じさせられました。

ドルカスはとても明るい雰囲気のある施設で、いつも子どもも職員も楽しそうに過ごしています。笑顔と笑い声が本当に多いです。私は今まで、そんなドルカスで子どもや諸先輩方から沢山のことを教えてもらいました。ただ、気が付けば私もだんだんそんな先輩方と同じ立場になってきて、新たに緊張することも多くなってきましたが、まずは明るく楽しいドルカスを守っていきたくらなと思っています。そして、これからも子ども達が喜んで遊びに来られる、そんなドルカスでいつまでもありたいな、と思います。

～入職して1年経ちました～

保育士 小玉 千晴
働き始めてあつという間に1年が経ちました。
子どもたちの笑顔のために試行錯誤しながら働いた毎日でしたが、思い返せば自分自身が子どもたちの成長や笑顔に背中を押さる水気をもらっていました。
これからも笑顔と背中を大切に、子どもたちと共に成長していきたいです。

保育士 山下 美羽
入職してからのこの1年、あつという間でした。出勤するとすぐにかける、来てくれる子どもたち、どのような相談も聞いて、アドバイスをしてくださる先輩職員の方々と一緒に過ごすことができ、毎日楽しいです。ドルカスベビーホームに就職してよかったです!

～入職して1年経ちました②～

保育士 杉江 香緒里
社会人になり、あつという間に1年が過ぎていきました。右も左も分からず失敗ばかりの日々で落ち込むこともたくさんありましたが、子どもたちにいせせながらだんだんと楽しく過ごせるようになりました。今までの反省を活かして2年目も頑張りたいです。

児童指導員 佐藤 香穂
就職して1年が経ち、新生児だった子が歩くようになり、ハイハイしていた子がお喋りができるようになり子ども達の成長に驚いています。私も子ども達に負けたくないようにたくさんを学び成長していきたいです。

里親センターひこばえ 「ひこばえってどんなところ?」

里親センターひこばえは唐池学園法人の中の一つですが、実際どんなことをやっているのかわからない方も多いのではないのでしょうか。今回は、ひこばえの活動の中の『里親家庭への支援』を紹介します。例えば乳児院・児童養護施設から里親家庭へ子どもが委託されたその後の関わりを具体的にいうと…

里親子を対象にしたサロンを定期的に行っています。
里親さん同士で自由におしゃべりでき、子ども同士も一緒に遊んで仲良くなれます。

里親さんの通院など、少しの時間子どもを見てほしい時、お預かりしています。

「小学校入学が近づいてきたけど、どんな準備が必要かな?」
という里親さんには、子どもの小学校入学をすでに経験した里親さんの話を聞ける機会を作ります。

「こんな時どうしたらいいの?」
子どもへの関わりに困ったとき、同じような悩みを抱えている里親さんたちと話をできる機会を作ります。



これは支援の一部ですが、ひこばえは必要な人と人をつなぐという役割が大きいのかもしれません。ひこばえのことが少しイメージできたでしょうか。

里親センターひこばえ ☎046-205-6092
開所日: 月・水・金・土 (10時~16時)

「発見を楽しもう！」

保育士 伊津 祥江



私は幼い頃つぼみ保育園に通っていました。
私が在園していた頃は園の周りは竹林、隣の中村公園には池があり、たくさんの生き物がいました。現在は綺麗なお家が建ち池もなくなってしまいましたが、その中でも子どもたちと一緒に自然に触れたい、生き物や植物を育てる楽しさや、命の大切さを学んでもらいたい気持ちから、金魚やメダカを育てたり、花壇や畑では毎年様々な野菜やお花を栽培しています。

昨年の5歳児クラスでは、園内や保育園の周りで見つけた生き物を写真に撮り自分たちで図鑑を作りました。作っていくにつれ「これはアゲハ蝶の卵だね」「この虫は新しい！何て名前だろう」と自分たちで学んだ事を伝えたり、知らないことを調べてみたりなど、子どもたちは目をキラキラさせながら発見を楽しめるようになりました。自然から学ぶ「やってみたい（触ってみたい）」「詳しくなりたい」「大きく育てたい」気持ちは、様々な場面で生かされてくると思っています。理事長がいつもおっしゃっている「綺麗な花とを感じるのはみんなの心が綺麗だから」の言葉の通り、これからも子どもたちと一緒に「発見！」を楽しみながら、優しさや人や物を大切にする心を育てていきたいと思っています。



『就職して1年が経ちました』

保育士 高梨 由捺

4月から入職しあっという間に過ぎた1年でした。私自身初めての事が多く心配もありましたが、周りの先生や子どもたちの笑顔にたくさん元気をもらいながら過ごすことが出来ました。



つぼみ保育園では、毎朝戸外で全クラスが集まり朝の挨拶・体操をしています。子どもたちの前に立ち見本で踊っていると、子どもたちはまっすぐな目で私を見つめてくれ、先生になれたことを嬉しく感じます。私は保育士になりつぼみ保育園に戻ってきましたが、保護者の中にもつぼみ保育園を卒園された方が多くいらっしゃいます。「またつぼみ保育園に行きたいな、預けたいな」と思ってもらえる園となる様、私もたくさんの経験をしながら成長していきたいと思っています。

乳児保育について

保育士 北村 佳奈美

乳幼児クラスでは、個々のペースに合わせて一人ひとりの生活の流れを大切にしています。その中で保育者として大事にしていることは、子どもの側に気持ちを置くということです。保育者側から捉える一日の保育の流れではなく、子ども達一人ひとりの目から見た保育園がそこには広がっていると想像し、一日を過ごしていきます。

一人ひとりの子ども達を主体として捉え、それぞれが大切な自分の時間を過ごし、自分のペースで成長していける事、それを保障することが個々のペースに合わせるという事なのではないかと思っています。保育園を成長の場（舞台）の一つとするなら、そこでは子ども達一人ひとりが主人公です。一人ひとりが自分らしく輝いていけるように、一日一日の関わりを丁寧に大切にしていきたいと思っています。



「1年を振り返って」

保育士 鮫島 明日美

1年を振り返って初めはクラスに慣れることが大変でした。子ども達に積極的に話しかけられなかったり、園の環境構成や仕事をなかなか覚えられず足を引っ張る毎日でした。

ですが、先輩達からのアドバイスを聞き実践をして、子ども達にも慣れ積極的に関われるようになりました。この一年間で子供達の成長も感じ、喜怒哀楽を共に過ごせて大変なことばかりではないと感じました。今もまだ出来なかったと反省することばかりですが、先輩達を見習いながら子供達と一緒に成長していきたいです。

保育士 杉浦 樹里

4月から保育士として働き始め、これまでの日々はあっという間でしたが、多くの事を学ぶことができた一年だと思います。また、一歳児の担任になり、子どもたちの成長を見守ることができ、とても嬉しくやりがいを感じる事ができました。

来年度はこの一年で学んだ事を活かしながら、より良い保育ができるようにしていきたいです。



「利用者の作業工賃・収入アップのために」

日中食品支援課 塚原 正臣

貴志園は、昔から福祉的就労施設として事業を行っており、日中は利用者の方が施設内で作業を行っています。以前はこのような事業を行っている施設を授産施設と呼んでいましたが、現在は制度上、生活介護事業所、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所という名称に変わり、それぞれの目的に沿って事業運営を行っています。

制度は変わっても、利用者の要望は大きく変わらず、「作業を行って工賃を稼ぎたい」という思いを持っている方が多くいらっしゃるため、現在も日中活動は作業をメインに行っております。作業で得た収入は利用者の作業工賃として支払わせて頂いていますが、作業収入が減れば利用者の作業工賃も減ってしまうという仕組みになっておりますので、私たち日中活動を支援する職員は、作業収入を上げることを使命として日々の業務を行っています。

そこで、今回は食品事業（グランドール）の取り組みについてご紹介をさせていただきます。

前述で作業工賃の仕組みについては説明をさせていただきましたが、収入は努力をしなければ簡単に上がるものではありません。特に食品においては、食べものですからお客様に食べたいという思いを持ってもらうこと、また、食べたときに美味しいと思ってもらえなければ、次にリピーターとして購入していただけることはありません。世間では見た目が9割と言われていますが、見た目だけが良くて1回きりのお客様になってしまうため、貴志園では1回購入をして頂いたお客様が「また食べたい」と思ってもらえるように味にもこだわっています。



グランドールのパンフレット



パンの種類は40種類ほど

味へのこだわりを持つ背景として、以前に私がパン販売の時に次のお客様から言われたことが影響しています。お客様がパンを購入された時に「障害者の方が一生懸命作っているのだから買ってあげないとね」と言われたことがあります。その言葉を聞いた時に、私は言葉で言い表せないような気持ちになりました。今思い返せばパンではなく障害者の方が頑張っていることに着目されていたので、それがその時のパンの価値であったように思います。ただ、私自身とて

も悔しい気持ちになり、その時に思ったこととして、今後はお客様に美味しいと言ってもらえるようなパンを作らなければならない、「こんな美味しいパンを障害者の方が作っているの」と言われるパン作りを目指さなければいけないと心に誓ったことを覚えています。

そして、貴志園にはもともと職人のような専門職が居ませんでしたので、これまで試行錯誤しながら製造を行ってききましたが、やはり専門職の方に見た目、味、商品価格が似合うようなパン作りを教わるが必要であると思い、講師の方を年に数回呼びパン作りを教えて頂き、少しずつではありますがレベルアップしてきました。それから10数年が経過しておりますが、現在は営業に行く時にまずパンを食べてもらうようにしています。そしてお客様に美味しいと思って頂けたら、お取引をお願いするようにしています。そうしなければ長いお付き合いが出来ないからです。また、商品価格も以前は菓子パン100円でしたが、現在は140円～、食パンは以前180円でしたが現在は270円となっております。



手作りメロンパン



大人気の食パンです

利用者の作業工賃アップが出来るようにパンの価値を高め、商品価格を変更し、今ではお客様に認めて頂いているパンであると感じています。それは、お取引して頂いているお客様が増えているからです。現在は綾瀬市、海老名市の公立、私立の保育園12ヶ所とお取引をさせて頂き、子供たちが安心して食べられるパンとなっています。また、近隣企業での販売、高座温水プールでの販売などを行い、お客様から「美味しかったので、また買いにきた」と声を掛けて頂くことが多く、リピーター客が増えてきているからです。食パンについても「この食パン食べたら、もう他のところの食パンが食べられなくなった」とお声を頂き、今では食パンの予約も増えています。

このようなお声を頂いた時、私は以前のことが頭に思い浮かび、これまで取り組んできたことが少しずつ実ってきていることを実感します。それは、私と同じ思いをもって利用者、職員が日々製造に取り組んでくれているからだと思いますし、特に現場の職員はパン製造のほか、衛生面など毎日気を使って業務を行っているからです。食品製造は色々な面でリスクが高いことありますが、貴志園では衛生管理をしっかり行い、お客様が安心して召し上がれるパンを作っています。昨今は原材料価格の高騰に伴い、更なる値上げを余儀なくされている状況がありますが、今後も

施設の紹介 ～障害者支援施設 貴志園③～

商品価値を高め、子どもから大人まで幅広い分野で愛されるパン作りを目指して行きたいと思えます。

そして、収入が利用者の作業工賃へと反映しますので、収入アップと利用者の作業工賃アップを目指し、利用者の方が豊かな生活を送れるように目的を持った日中活動を今後も行っていききたいと思っています。



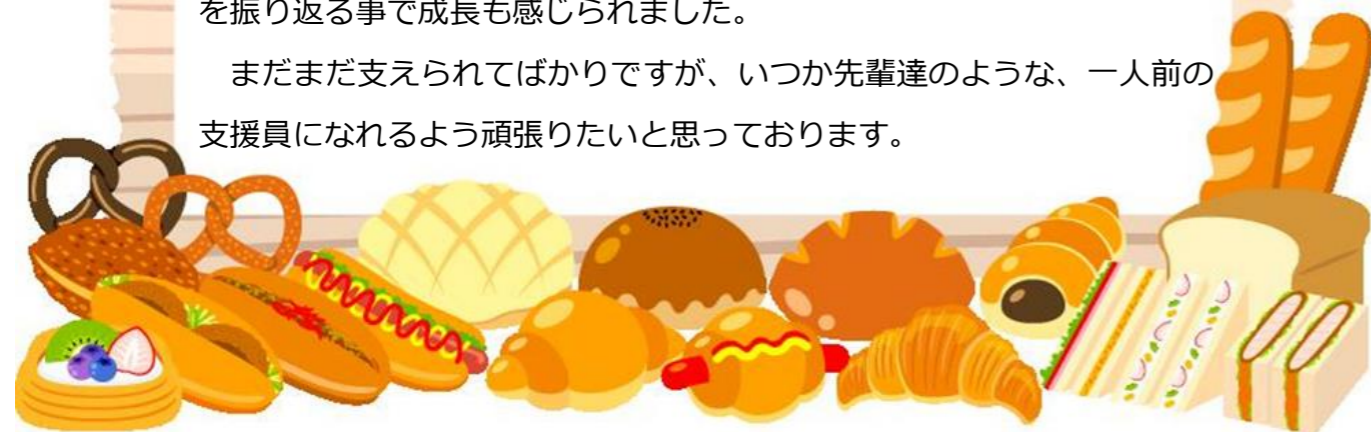
綾瀬市出身の石渡真修さんが取材に来て、TVKの猫のひたいほどワイドでも紹介されました

まだ、貴志園グランドールのパンを召し上がったことがない方は是非、ご賞味下さい！
みなさまのご来店を心よりお待ちしております。

「一年を振り返って」 日中食品支援課 支援員 辻 真美

一年を振り返って、楽しい事はもちろん悩む事も多くあり、初めて経験する事も多く、濃厚な一年となりました。特に利用者関係に悩む事が多く、自分なりにどう支援していけばいいか考えていく事が難しかったです。そんな時、周りの先輩職員の支えで何度も救われました。また、自身を振り返る事で成長も感じられました。

まだまだ支えられてばかりですが、いつか先輩達のような、一人前の支援員になれるよう頑張りたいと思っています。



職員寄稿

「成長を感じて」

ドルカスベビーホーム 保育士 石橋 香織

私がドルカスに勤めて丸5年が経ちました。入社してから本当にあっという間で、仕事を覚えるのに必死だった1年目の頃の記憶はほとんどありません。そんな中でも、その当時いた子ども達のことは今でもふと思い出すことがあります。特に担当していた子どもとの思い出は何年経っても鮮明に覚えています。これは以前担当していたRくんとのお出来事です。

Rくんは恥ずかしがり屋で、照れた時に見せるはにかんだ笑顔が可愛い男の子でした。2歳になりドルカスから児童養護施設へ移動した後も、数カ月に1度会いに行っており、会う度に成長しているRくんの姿を見るのが私の楽しみでもありました。Rくんの4歳の誕生日に会いに行った時、園庭で一緒に遊んでいると、2歳の時は登りたくても上手に登れなかったジャングルジムを、いとも簡単に登って行きました。まだ少し幼かった頃のRくんの面影を重ねながら、思わず「すごいね！」と声をかけると、Rくんはきょとんとした表情。いつものはにかんだ笑顔ではなく、最初はその反応を不思議に思いましたが、私はすぐに、Rくんにとってジャングルジムに登れることは“すごいこと”ではなく“当たり前のこと”になっているのだと気が付きました。体も大きくなり、昔よりも登れるようになるのは当然のことかもしれませんが、私が見ていない間に、ジャングルジム以外にもたくさんの“できるようになった事”があるのだろうと思い、成長を嬉しく思うのと同時に、私の記憶の中にいる幼いRくんをととても愛おしく感じました。

何気ない日常の中にも、子ども達が成長している瞬間はきっとたくさんあって、しかし慌ただしく過ぎる日々の中では見落としてしまっていることも少なくないと、この仕事をして身をもって感じています。だからこそ、子ども達と過ごす時間を大切に、一瞬一瞬見逃さないように、見守っていきたくて思いました。

そして、子どもたちの成長に負けないように、私も日々精進していきたくて思います！



-創作- 「新しき酒は新しき皮袋に」

唐池 三平（前理事長 故 鶴飼 正男 先生）

準備

長い間の憧れだった新園舎の建築設計に当たって、修三が一番考えたのが、どんな建物がそこに住む人々の情緒を安定させるかということだった。

偶然読んだライトの随筆の中に幽暗を重視しているのが修三の心を捉えた。

幸いなことに東京には彼の際大傑作の一つの帝国ホテルがあった。

修三はそのうす暗い高低の変化に富んだ同ホテルのロビーの中で、それまで味わったことのなかった建築空間の吸引力を感じとっていた。全く偶然に彼の前を有名なテノール歌手藤原義江氏がゆっくりと歩いて行ったが、彼すらライトの構成したほどの暗い室の中ではそう目立たなかった。

修三にとって何よりの驚きは、褐色のスクラッチタイルと大谷石という内壁と外壁の素材が全く同じでありながら、室内の空気がとても落ちついていることだった。修三は似たような建物を見た。諏訪湖畔にも倉敷の河畔にも足を運んだ。

設計士との検討が連日続いた。原案を A から始まって I まで変えた。文字通り施主と設計士と、そこで働く職員達との協同作業だった。南面の長い単調さがやや不満なだけで基本設計は出来上った。

修三は緑濃い建設予定地に虹の渡るのを見た。

地鎮祭

その日は朝から快晴だった。

精気を噴き上げているような麦畑の穂を鳴らして五月の風は爽やかだった。

老いた M 神父は式服のすそをひるがえしながら大きく掘られた幾つかの穴に聖水を投げかけて祝別をされて行った。

ぼそぼそと聞きとれないような声で神父の話があった。

「地上に見える建物の美に目を見張る人は多いが、それを与え安定させている地下の目に見えぬ基礎に心をやる人は少ない。がそれなくしては建物は立たない。そこで働く職員とここに育てられる子供らも心の基礎をしっかりと築くようにつとめて下さい。」 修三の目に涙が溢れた。

園児達の甲高い声でキリ工（讃歌）の合唱が野会場に流れた。指揮をした保姆は美人だった。参会者の中にその姿を見ながら伴の嫁にと考えた重役がいて、あとで修三に相談があった。

幸福

修三は妻とつれ立って工事のまだ始まらぬ朝方に現場を見に歩いた。

醜いコンクリの下地のままながら、日々現場は竣工を目ざして変化して行った。昨日なかったパイプが今日は敷かれ、今日は材料置き場にあったブロックが明日は室内の壁に積み上げられて行った。

修三は「幸福とは幸福への期待である」という有名な言葉を思い返しては日々楽しかった。



聖堂

仮住居からの引越の前日、園児ら凡てを引きつれて内部を見せて回った。

子供らは勿論大よろこびだった。十歳の義哉が「先生、これ本当に僕達の住居なの？本当？」と目を輝かせた。「ああ本当だとも明日から君達はここに住んで暮らすんだよ」「うわー凄えや。凄すぎらあ」義哉はしばらく黙ったあとに急に「園長先生、どうもありがとうございます」と大人みtainな口調で感謝した。修三は、『子供がそんなことを言うもんじゃない』と言おうとしたが、危く、嬉し涙が溢れ出そうになった。そしてそれを子供らの前でかくすのに苦労した。後刻新園舎の中の小さな暗い聖堂で修三は感謝の祈りを祈りつづけた。

落成式

その日も又快晴だった。

分園の竣工式、保育所の披露日、この度の新園舎の上棟式等ここ二、三年の間人を集める度に雨に見舞われるので、今度もあるいはと危惧していたが、杞憂に終わった。

会は盛会だった。知事も忙しい中をわざわざ出席して祝辞を述べてくれた。

祝宴の席も人いきれと談笑で涌きたった。客の中には鏡をぬいた一斗樽をかかえて歌い出す人もいた。

修三はうれしくてたまらなかった。心の隅にあることを思い出しながらつまらぬことで有頂天になってはいけなと自分に言いかけながらも、うれしくてたまらなかった。

ある思い出とはこんなことだった。

戦時中に、修三は横須賀である機会から信濃という巨大な新造空母の試運転に乗船出来た。言わば七万トンの超弩級艦の披露だった。飛行甲板を金べたの襟をつけた提督が両手を後手にくみながら、いかにもうれしくてたまらぬという風にうつむき加減に歩いていた。もう初老に近い男だった。艦長だったかも知れぬ、行き違った修三の目にその満足ぶりが印象に残った。

当時としては文字通り世界最大の巨艦、その指揮者、栄達、男の生き甲斐。そのときの甲板上をそよぐ風よりもまだ快いものを、その提督の歩く姿は蔵しているように見えた。

所がその試運転の日から旬日もたたぬうちに、その信濃は偽装のため横須賀から呉へ向かう途中敵の魚雷に撃沈させられて了った。要するに何の役にもたたなかった。

修三はそのときの人間のいとなみのはかなさをいやというほど痛感した。巨大な建造物、立身出世をよろこぶことの味気なさが身にしみた。

そんな思い出があって、単に建物の立派さを喜ぶことの無意味さを知っている筈なのにそれでも修三は嬉しかった。祝賀に集って下さった人に一人一人に丁寧に頭を下げて礼を言いたい位だった。



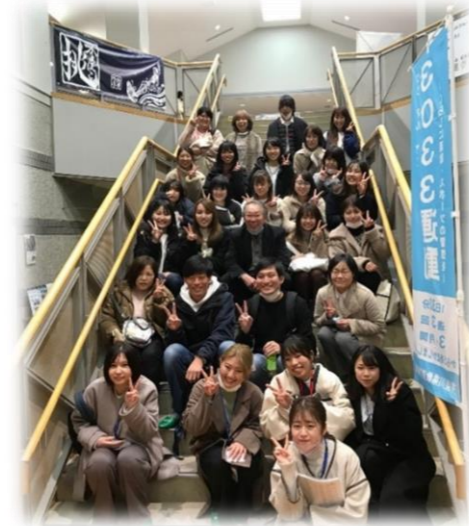
今回は、第 57 号でも紹介された前理事長の故鶴飼正男先生が、現在の唐池学園園舎を建設した際の心境をお書きになった創作を再掲しました。唐池学園と強羅暁の星園の園舎がともに築 50 年を経過し、建替えの検討を進めている今、原点に立ち返り、大切にしなければならぬものは何かを教えてくれている、そのような気がしました。（広報研修委員会 庶務：勝俣浩之）



「新任職員研修は、豪華温泉宿泊施設で！！」 <<法人>>

唐池学園では、新任職員の皆さんの労いも兼ねて、毎年、箱根町の豪華温泉宿泊施設「ホテル河鹿荘」を主会場に研修を行っています。昨今の新型コロナウイルスの影響により、しばらく開催できずにいましたが、昨年（令和3年）11月、コロナ禍の制限が解除されたタイミングで、令和2年度と3年度の新任職員合同の宿泊研修を行いました。晩秋の箱根の温泉と紅葉を味わいながら、同期の職員との交流も深められました。

人と人とのコミュニケーションが一際大切な福祉のしごとの世界。参加者にとって大変貴重な2日間になったと思います。



【利用者さんへの気配りも充実！！】 ～久々のみんなでの栃木旅行～ <<貴志園>>

利用者の皆さんには、新型コロナウイルスの感染予防のために外出の制限やマスクの着用・消毒など、日々たくさんの協力をしてくれていますが、少しでも日常の喧騒を忘れて思いっきり楽しんでもらいたいと考え、社会福祉法人が経営する「那賀川苑」（栃木県）に、旅行してきました。神奈川県内の感染状況や社会情勢に影響されて何度も延期を繰り返すことになり、8回に分けて少人数での旅行となりましたが、帰ってきてからの利用者の顔は晴れ晴れ！「とっても楽しかった、また行きたい」と思い出をたくさん語ってくれました！



令和3年度に表彰を受賞した職員等の紹介

【厚生労働大臣表彰】

ドルカスベビーホーム 佐々木 智子、渡辺 美香、柏木 裕子
 貴志園 富岡 貴生（園長）

【全国乳児福祉協議会「感謝」】

ドルカスベビーホーム嘱託医 穴戸 淳 先生

皆さんの頑張りが、施設を、そして法人を支えています。おめでとうございます。



貴志園主催「しらさぎ祭」のご案内

令和4年9月に開催を予定していました「しらさぎ祭」は、昨年度同様新型コロナウイルスに係る諸状況を考慮し、参加者を施設利用者及び支援員に限定して開催することとなりました。

毎年、ご協力を頂いている皆様、お祭りを楽しみにされている皆様には大変申し訳なく思いますが、何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



あやせ福祉ふれあいまつり出店のお知らせ

3年ぶりに再開が予定されている「あやせ福祉ふれあいまつり」に、ドルカスベビーホームでバザー用品販売の出店をさせていただきます。

皆さま是非お立ち寄りください。

【日時】 令和4年10月2日（日）
 午前10時から午後2時まで
 【会場】 綾瀬市オーエンス文化会館



【貴志園】

一服館 【手打ちそば・うどん】 TEL：0467-76-6206

営業時間：11：00～15：00 定休日：土曜日・日曜日・祝日
 1階の店内でお食事できます。（テーブル席26／カウンター席9）
 ＊現在、席数を減らして営業中です



グランドール【パン工房】 TEL：0467-76-6206

営業時間：10：00～15：00 定休日：土曜日・日曜日・祝日
ご予約・配達も承っております!! ※ご注文・ご予約は、毎週月曜日～金曜日（祝日は除く）9:00～16:00
 ＊現在、グランドール内でのお食事はお断りさせていただいています



左の写真は、平成30年6月8日にテレビ神奈川の取材を受けたときのものです。





令和4年度 新任職員紹介

所属	氏名	趣味・特技	抱負
唐池学園	徳本 里奈	音楽を聴くこと、基本的にどこでも寝られること	さまざまに物事に触れて視野を広げていきたいと思いたいです。プライベートも充実させたい！
強羅暁の星園	越智 葵	漫画を読むことと食べること	子どもと信頼を築くため、日々のコミュニケーションを大切にしていきます。
	鷹野 佳介	サッカー観戦とバイクとラーメンを食べること	子ども一人一人と向き合い、日々を全力で過ごしていきたいです。
	有田 未空	空を見ることと食べ歩き	普段の生活から子どもたちとの関わり、特に「おはよう」から「おやすみ」までを大切にしていきます。
	海老原 愛	食べることと話すこと	子どもたちと笑い合える時間を大切に日々の支援にあたりたいと思いたいです。
	赤羽 風香	絶景を写真に収めること	日々を前向きに、波乱万丈の毎日を楽しみます！！
ドルカスベビーホーム	百瀬 太喜	映画・ドラマ・アニメ鑑賞、読書、けん玉	自分なりの心理士としての役割を見つけていきたい。
	友利 星玲奈	音楽鑑賞 (J-rock)	保育の事はきちんと勉強できていない身ですが、子ども達としっかりと向き合っていけるように頑張りたいです。
つぼみ保育園	佐藤 尚美	旅行・掃除すること	初心を忘れず、今までの経験を活かし、安心安全な環境作りを心掛け、子どもたちと楽しく過ごす中で、保育士のスキルをさらに高めていきたいです。
	佐藤 愛美	カフェ巡り・お菓子作り	常に笑顔を忘れずに子どもたちと楽しい毎日を過ごしていきたいです。子どもたちからたくさんパワーをもらい保育士として成長していきたいです。
	松尾 純花	映画鑑賞・ダンス	子どもたちに保育園での生活が「楽しい」「安心できる」と思ってもらえるように1人ひとりに寄り添った保育をしていきたいです。
貴志園	野村 亜紀	こどもの試合観戦	仕事に家庭に何事にも、事に当たる際には、元気に笑顔でひたむきに頑張ります。
	田村 美和	コスメを買う事・マツ育	本年度から社員になったので、今まで以上に責任を持ち今までの経験を少しでも役に立てられればと思います。



今年4月1日にレンブラントホテル海老名で、13名の新任職員が鶴飼理事長から辞令を交付されました。

辞令交付式の終了後は新任職員研修(写真)が行われ、理事長から「福祉人としての基本的な心得」を、田中理事から「人権擁護と虐待の防止」を学びました。最後には新任職員一人ひとりから「仕事をする上での夢・頑張りたいこと」について宣誓がありました。

皆さん、この日のことを忘れずに希望を持って頑張ってください。

協力会会費・寄附金をくださった方々の紹介

《期間：令和3年4月～令和4年3月まで(50音順に掲載)》

青木 勉 様、赤羽てい子 様、岩田泰子 様、(株)NB建設 様、大塚哲朗 様、奥野裕子 様、角田章子 様、勝俣幸子 様、川邊湊子 様、木村哲夫 様、刑部久子 様、共和総業(株) 様、國次尚志 様、千絵 様、工藤敏朗 様、小泉晴俊 様、国際ソロプチミスト綾瀬 様、古塩幸子 様、(株)コスモジェーオーピー 様、後藤真一 様、小林陽子 様、今 壽夫 様、齋藤政子 様、五月女美穂 様、佐藤昭浩 様、志澤 勝 様、島村益樹 様、女子学院 様、鈴木克政 様、鈴木嘉雄 様、鈴木典子 様、大吉大和柳橋店 様、長井晶子 様、中里良治 様、額賀智徳 様、法子 様、野々村力ヨ子 様、服部和子 様、服部信一 様、原瀬克久 様、原瀬光子 様、半沢建設(株) 様、福岡令朗 様、福祉・医療コンシェルジュ(株) 様、藤沢北教会 様、二見吉明 様、まちの司法書士事務所 司法書士 篠原康史 様、(株)マルハン綾瀬上土棚店 様、三上玲子 様、三崎たずる 様、水島末好 様、明月堂薬局 様、(株)MOTTERU 様、森谷充子 様、(株)安江設計研究所 様、柳淳之介 様、山浦雅一 様、山口晴一 様、山田すみ子 様、渡井喜一 様、その他たくさんの匿名の方々



《施設からの報告》

○児童養護施設 唐池学園

神奈川県共同募金会からの配分を受けて、地域小規模児童養護施設「ななの家」の屋根・外壁の修繕と塗装を行いました(写真右)。気になっていたひび割れや、壊れて



いた配管も直り、子どもたちが今まで以上に安心して生活できる環境となりました。

一般財団法人篠原欣子記念財団(<https://ysmf.or.jp/>)の助成を受けて、本園1号室のお風呂を改修しました(写真左)。小さな修繕を重ねながら長い間使っていたお風呂がきれいになり、お部屋の子も職員も「気持ちがいい！」と喜んでます。安心安全で居心地の良い生活の場に改善できました。

○吉岡保育園

神奈川県共同募金会からの配分を受けて、園舎にオーニング(日よけ)を設置しました(写真右)。

南向きの園舎に降り注ぐ夏の太陽の強い日差しから園児と職員たちを守ってくれています。



～ 誠にありがとうございました。唐池学園及び各施設一同、感謝申し上げます ～



*共同募金会とは、赤い羽根をシンボルとする共同募金を行う社会福祉法人で、社会福祉法に基づき都道府県ごとに組織されています。

赤い羽根共同募金は、福祉施設の運営の一部を支えています。

※詳しくは → www.akaihan.or.jp をご覧ください。



令和3年度決算報告（法人単位貸借対照表）

令和4年3月31日現在

（単位：円）

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	450,048,107	流動負債	170,505,615
現金預金	305,388,842	事業未払金	87,699,879
事業未収金	106,151,742	1年以内返済予定設備資金借入金	19,282,000
未収補助金	12,955,908	1年以内返済予定リース債務	806,520
原材料	439,986	未払費用	322,000
立替金	19,251,924	預り金	427,621
前払金	2,448,756	職員預り金	3,867,834
前払費用	2,414,819	仮受金	8,108
仮払金	996,130	賞与引当金	58,091,653
固定資産	2,533,904,413	固定負債	320,403,570
基本財産	1,209,678,368	設備資金借入金	162,980,000
土地	336,043,225	リース債務	1,478,620
建物	873,635,143	退職給付引当金	155,944,950
その他の固定資産	1,324,226,045	負債の部合計	490,909,185
土地	34,918,541	純資産の部	
建物	111,439,031	基本金	618,305,701
構築物	23,915,706	基本金	618,305,701
機械及び装置	4,102,771	国庫補助金等特別積立金	591,790,813
車両運搬具	9,553,676	国庫補助金等特別積立金	591,790,813
器具及び備品	28,622,417	その他の積立金	949,418,254
有形リース資産	2,285,126	人件費積立金	309,700,000
権利	1,701,200	修繕費積立金	470,000
ソフトウェア	226,813	施設整備等積立金	532,948,254
退職給付引当資産	155,944,950	保育所人件費積立金	28,000,000
人件費積立資産	309,700,000	保育所施設整備積立金	78,300,000
修繕費積立資産	470,000	次期繰越活動増減差額	333,528,567
自動車リサイクル預託金	103,560	次期繰越活動増減差額	333,528,567
差入保証金	1,994,000	（うち当期活動増減差額）	111,467,620
施設整備等積立資産	532,948,254		
保育所人件費積立資産	28,000,000		
保育所施設整備積立資産	78,300,000		
		純資産の部合計	2,493,043,335
資産の部合計	2,983,952,520	負債及び純資産の部合計	2,983,952,520

※その他の詳細は、法人のホームページ（URL：<https://www.houjin-karaike-g.org/>情報公開/）をご覧ください。

【お葉書の紹介】 第70号の読者プレゼントにご応募いただいたお二方の感想等をご紹介します。

シリーズ連載“千鳥足の価値観”“野の花のこと”興味深く、楽しく読ませていただいております。
脈々と引き継がれ、そして今、福祉に携わる皆さまの、ひたむきな一生懸命さ、冊子全体に流れる温かい風、70年以上も前のセピア色の貴重な写真、残しておきたい一冊です。（足柄下郡 K 様）

本誌を最初にいただいた時、驚いたことがありました。それは、「雑品倉庫」という本誌の名前でした。福祉施設あるいは養護施設分野に関する自分の認識の域を超え、奇抜としか言いようのない名前を考えられたものだという印象を持ちました。しかし、この名前の由来を本誌第69号で拝読させていただき、命名に秘められた素晴らしい熱い意思を理解することができ、認識を改めさせていただきました。（相模原市 N 様）

※ご応募ありがとうございました。なお、紙面の関係上、一部割愛して掲載させていただきました。

役員等名簿（令和4年7月1日現在） *敬称は省略させていただきました。

区分	氏名
理事（6名）	鶴飼 一晴（理事長）、摩尼 昌子、富岡 貴生、田中 晃、 笹野 つる子、加園 貴代子
監事（2名）	長井 晶子、柏倉 正
評議員（9名）	手塚 宏子、高松 邦夫、鈴野 敏、山口 晴一、今 壽夫、 森谷 充子、古塩 幸子、服部 和子、後藤 真一
評議員選任・解任委員（4名）	長井 晶子、阿部 浩行、鈴木 美恵子、稲垣 美千子
第三者委員（3名）	守矢 栄美子、天笠 律津子、長谷部 理恵

♪ 読者プレゼントのお知らせ ♪ ～ 雑品倉庫の感想・ご意見をお寄せください ～

『貴志園 2022 冬のギフト』を応募多数の場合は抽選で10名様にプレゼントします。

応募方法 官製はがき又はe-mailに「住所」、「氏名」、「電話番号」、「雑品倉庫の感想・意見等」をご記入のうえ、事務局までご応募ください。

e-mailの場合は、件名を「読者プレゼント応募」としてください。

応募〆切 令和4年12月9日（金曜日）消印有効

※ 当選発表は、賞品の発送（年内の予定）をもってかえさせていただきます。

※ 雑品倉庫の感想・意見等は、次号の紙面で紹介させていただく場合がありますので、ご承知おきください。



< 編集後記 >

新型コロナウイルスによって、今までのように自由に人と会い、外出することなどができない状況ではありますが、ワクチン接種の浸透や感染対策の徹底などによって、平穏な生活を取り戻し始めているように思えます。

当法人を利用する子どもや障害のある人たちの感染予防に努めながらも、元の生活に戻していけるよう職員一同、知恵を出し合いながらチャレンジしていきたいと考えているところです。

広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

発行者 社会福祉法人唐池学園協力会

編集者 社会福祉法人唐池学園 広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

編集委員 田村 舞奈、名川 壮平、石橋 香織、相馬 幸那、岩内 亜矢、小山 信、勝俣 浩之

事務局 〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡2377番地口号 唐池学園内（担当：勝俣 浩之）

電話：0467-78-0514/080-4897-1867 Fax：0467-76-3006

e-mail：karaike-honbu@bz04.plala.or.jp URL：<https://www.houjin-karaike-g.org/>